

# 竹炭は立派な土壌改良剤

西日本と千葉県において竹炭が年々拡大しているのを、存知だろうか。11月12日、袖ヶ浦市にある、ちば里山センターで開かれた『竹炭シンポジウム in 千葉』では、千葉県農林総合研究センター森林研究所首席研究員の福島成樹さん他有識者による、竹林拡大の現状と対策、解決策の一つである竹炭の有効活用法についての講義と炭化器による竹炭製造デモンストラーションが行われた。

竹林拡大の大きな原因は竹材の利用が減少し、管理されない土地が増えてしまったこと。竹林が増える



森林の水源かん養機能を低下させる、土砂崩防止機能を低下させるといった被害が出てくる。これらを防ぐためには伐竹などによる拡大防止が必要だ。そして伐竹したものを資源として活用できれば理想的である。実践例として、長生郡市で里山の整備活動を行っている『NPO法人竹もりの里』では、竹材は工芸品や遊具に、竹粉は養鶏用の飼料に、竹炭は農業用土壌改良剤として活用している。そのうちの竹炭に焦点を当てたのが今回のシンポジウム。竹炭を配合した土は窒素とカリウムが増える、アルカリ性を保つ

保水力が増す、などの効能が確認されている。連作障害も防げる。パイオマスを活用したエネルギー創出に取り組む、都内の認定NPO法人『KIBETS』竹林タスクチームによると、実際に様々な野菜の生育を実験した

と、竹炭を配合した土で収穫したカブの体積は通常の土で収穫したものに比べ約1・3倍、落花生の収穫量が約1・8倍だったなどの明白な差が出たという。

竹炭を普及させるには安全で手軽、そして安価であることが必要不可欠。そこで考案されたのが、直径1・5mの鉄製無煙炭化器。茶碗のような円形の容器に枯れたタケや落ち葉など着火しやすいものを入れ、タケを投入していくだけ。約10分で750度に達する。側面の約60度の傾斜が効率よく燃える力ギなのだ。1時間ほどで竹炭が出来上がる。あとは大量の水をかけて消火活動を。野焼きに比べると低労力で大量の竹炭を製造することができる。これももとの更に生産性を上げ、運搬が容易にできるよう容量1800ℓの大型炭化器が開発された。2・4m×1・9mの長方形で組み立て式、ガルバリウム波板の囲いで側面に傾斜がついている。この技術と竹炭の有効活用が広がり、里山整備の手助けとなることを期待したい。



（磯川）  
 圃KIBETS竹林タスクチーム・篠崎さん  
 ☎080・5090・0031